

公演報告：N響ヨーロッパ公演2020 in ロンドン

2月24日、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団の本拠地でもあるロンドンの名門ホール、ロイヤル・フェスティヴァル・ホールで、2017年以来3年振りとなる、N響ロンドン公演が行われました。

パーヴォ・ヤルヴィの指揮で、前半はタリン公演に引き続き、武満徹《ハウ・スロー・ザ・ウィンド》、シューマン《チェロ協奏曲》(独奏：ソル・ガベッタ)を演奏。後半のラフマニノフ《交響曲 第2番》が終わると、客席からは大きな歓声と力強い拍手が沸き上がり、スタンディング・オベーションも起きました。

ロンドン公演当日の2月24日はパーヴォ・ヤルヴィの母国、エストニアの102回目の独立記念日。鳴りやまない拍手にこたえるように、エストニアの作曲家エツレルの《故郷のメロディ》を、パーヴォのスピーチに続いてアンコール演奏。日本、イギリス、エストニア、ガベッタの母国アルゼンチン、そして演奏曲が生まれたドイツ、ロシアと、「音楽は国境を越える」ということばを証明するかのよう、多彩なハーモニーが共鳴する特別な一夜となりました。

N響ヨーロッパ公演2020 ロンドン公演

2020年2月24日(月) 7:30pm～

指揮：パーヴォ・ヤルヴィ

チェロ：ソル・ガベッタ

武満徹／ハウ・スロー・ザ・ウィンド

シューマン／チェロ協奏曲 イ短調 作品129

ラフマニノフ／交響曲 第2番 ホ短調 作品27



撮影: Belinda Lawley